

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年10月11日

**【四半期会計期間】** 第75期第1四半期(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)

**【会社名】** 宝印刷株式会社

**【英訳名】** TAKARA PRINTING CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 堆 誠一郎

**【本店の所在の場所】** 東京都豊島区高田三丁目28番8号

**【電話番号】** 03(3971)3101(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部長 若松 宏明

**【最寄りの連絡場所】** 東京都豊島区高田三丁目28番8号

**【電話番号】** 03(3971)3101(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部長 若松 宏明

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第74期 第1四半期 連結累計期間		第75期 第1四半期 連結累計期間		第74期	
	自 至	平成22年6月1日 平成22年8月31日	自 至	平成23年6月1日 平成23年8月31日	自 至	平成22年6月1日 平成23年5月31日
売上高 (千円)		5,055,456		4,701,624		11,306,710
経常利益 (千円)		1,536,128		1,186,230		775,868
四半期(当期)純利益 (千円)		837,970		687,811		333,136
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		824,428		675,031		299,378
純資産額 (千円)		12,931,792		12,315,884		11,780,827
総資産額 (千円)		14,812,763		14,453,517		13,915,958
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)		67.67		58.97		27.16
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		87.1		84.9		84.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)		1,612,342		1,716,778		979,375
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)		88,273		27,895		268,158
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)		145,413		144,285		822,288
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)		5,568,904		5,623,774		4,079,177

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第74期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災の影響により厳しい状況が続きましたが、サプライチェーンの復旧や個人消費の持ち直し傾向が見られるなど、緩やかに回復しつつあります。しかしながら、米国及び欧州における財政不安による世界経済の先行き不安や長引く円高、わが国におけるデフレの長期化等の影響が依然残っており、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

こうした状況のもと、ディスクロージャー関連事業に関係の深い株式市場は、日経平均株価が一時は1万円台まで回復しましたが、依然として低水準で推移しており、また、8月には9,000円を割り込み、引き続き厳しい状況が続いております。

ディスクロージャー関連事業の分野におきましても、上場会社数の減少に加え、企業のコスト削減意識の浸透による価格競争の激化など、業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

当社グループは、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであります。売上高につきましては、金融商品取引法関連製品、会社法関連製品、IR関連製品、その他製品に区分して記載しております。

#### 売上高

当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比353百万円(7.0%)減少し、4,701百万円となりました。

売上高を製品区分別に説明いたしますと、次のとおりであります。

- 金融商品取引法関連製品につきましては、ファイナンスの減少や投資信託目論見書の簡素化の影響などで目論見書の売上が減少しました。また、四半期報告書の簡素化の影響や、上場会社数の減少、競争激化の影響で四半期報告書や有価証券報告書の売上が減少しました。この結果、前年同四半期比274百万円(12.0%)減少し、2,016百万円となりました。
- 会社法関連製品につきましては、主に株主総会招集通知の売上が減少しました。これは、上場会社数の減少、競争激化の影響などによるものであります。この結果、前年同四半期比42百万円(3.6%)減少し、1,116百万円となりました。
- IR関連製品につきましては、主に事業報告書の売上が減少しました。これは、上場会社数の減少、競争激化の影響などによるものであります。この結果、前年同四半期比67百万円(4.9%)減少し、1,309百万円となりました。
- その他製品につきましては、主に株主優待用のクオ・カードの受注が増加したことなどにより、29百万円(13.0%)増加し、259百万円となりました。

#### 営業利益

上記の通り、売上高の減少により売上総利益が減少したことにより、営業利益は前年同四半期比345百万円(22.8%)減少し、1,171百万円となりました。

#### 経常利益

営業外損益は、前年同四半期の18百万円のプラスから14百万円のプラスとなり、経常利益は前年同四半期比349百万円(22.8%)減少し、1,186百万円となりました。

#### 四半期純利益

投資有価証券評価損が前年同四半期の105百万円から2百万円に減少し、特別損失が減少しましたが、税金等調整前四半期純利益は前年同四半期比242百万円(17.0%)減少し、1,180百万円となり、四半期純利益は前年同四半期比150百万円(17.9%)減少し、687百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて9.4%増加し、7,293百万円となりました。これは、現金及び預金が1,544百万円増加し、仕掛品が661百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.3%減少し、7,159百万円となりました。これは、ソフトウェアが63百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3.9%増加し、14,453百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2.1%減少し、1,771百万円となりました。これは、未払法人税等が601百万円増加し、買掛金が467百万円、未払費用が580百万円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12.6%増加し、366百万円となりました。これは、退職給付引当金が71百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて0.1%増加し、2,137百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4.5%増加し、12,315百万円となりました。これは、主として利益剰余金が547百万円増加したことなどによります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ1,544百万円(37.9%)増加し、5,623百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は前年同四半期に比べ104百万円(6.5%)増加し、1,716百万円となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,180百万円、たな卸資産の減少額669百万円であり、支出の主な内訳は、未払費用の減少額580百万円及び仕入債務の減少額467百万円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ60百万円(68.4%)減少し、27百万円となりました。

これは主に、有形・無形固定資産の取得による支出26百万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ1百万円(0.8%)減少し、144百万円となりました。

これは、主に配当金の支払額126百万円によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

### 基本方針の内容の概要

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありませんが、当社取締役会は、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じる可能性があるかと判断されるような当社株式の大量取得行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えます。

したがって、当社は、当社株式に対する買付が行われた際に、株主の皆様が買付に応じるか否かを判断するためや当社取締役会が代替案を提案するために、必要な情報や時間を確保したり、買付者と交渉を行うことを可能とすること等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する買付行為を抑止するための枠組みが必要であると考えております。

### 取組みの具体的な内容の概要

イ 会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループはこれまで進めてきた中期経営計画を引き続き継続するとともに、攻めの経営を断行することにより持続的成長を実現させてまいります。

当社は、株式公開を目指した昭和63年頃から組織的な運営を行うため、諸規程の整備、運用、文書化の推進および内部監査を行い業務の改善に努めるとともに、利益計画を作成してまいりました。その

精度を更に高めるため当社を取り巻く内部環境および外部環境の分析を基に、各ステーク・ホルダーにも配慮した経営計画の必要性を感じ、中期経営計画を策定することといたしました。その後、社会・環境・経済のトリプル・ボトムラインを意識した目標を加え、中期経営計画を策定しております。

その実行計画として各年度予算を策定し、全社的な目標を設定のうえ、各部門でその具体策をまとめ、社訓とともに、これに則した経営を展開し、着実な成長を実現してまいりました。

□ 基本方針に照らして不適切な者が支配を獲得することを防止するための取組み

当社は、平成19年7月17日開催の取締役会において、当社の企業価値および株主共同の利益を確保し、または向上させることを目的として、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「旧プラン」といいます。）の導入を決議し、平成19年8月23日開催の当社第70回定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただきました。

仮に当社株式に対する買付その他これに類似する行為またはその提案（以下総称して「買付」といいます。）が行われた場合、買付を行う者またはその提案者（以下総称して「買付者」といいます。）に対し、遵守すべき手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報および時間ならびに買付者との交渉の機会の確保をしようとするものであります。当社は、基本方針に照らして、当社の企業価値および株主の皆様の共同の利益を明白に侵害するおそれのある買付者によって、当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値が毀損され、株主の皆様にとって不本意な形で不利益が生じることを未然に防止しようとするものであります。

なお、旧プランは、平成22年8月20日開催の当社第73回定時株主総会の終結の時までとされておりましたが、平成22年7月13日開催の取締役会において、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を一部変更のうえで継続することを決議し、同定時株主総会にて株主の皆様のご承認をいただきました。（以下変更後のプランを「本プラン」といいます。）

取組みの具体的な内容に対する当社取締役会の判断およびその理由

イ 買収防衛策に関する指針の要件をすべて充足していること

本プランは、当社基本方針に沿い、関係諸法令、裁判例、株式会社東京証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る規則および「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」（平成17年5月27日 経済産業省・法務省）の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）、ならびに「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」（平成20年6月30日 企業価値研究会）の定める指針の内容を充足するものです。

□ 株主意思の重視

本プランは、平成22年7月13日開催の当社取締役会において決議され、平成22年8月20日開催の当社第73回定時株主総会において承認されたことをもって導入されたものです。

また、本プランの有効期間は約3年間に限定されていること、さらに、当社取締役の任期は1年とされていることから、取締役の選任議案を通じて、1年ごとに株主の皆様のご意思が反映されることとなります。

ハ 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

本プランでは、取締役を監督する立場にある社外取締役、社外監査役または弁護士・大学教授等の社外有識者からなる特別委員会を設置し、取締役会は特別委員会の勧告に従い本プランの発動または不発動を決議するという手続を採用することにより、当社経営陣の恣意的判断を排し、当社の企業価値および株主共同の利益の維持・向上に資する公正な運営が行われる仕組みが確保されております。

また、特別委員会の判断の透明性を一層高めるため、買付者から提出された買付説明書の概要、買付者の買付内容に対する当社取締役会の意見、代替案の概要、その他特別委員会が適切と判断する事項を、原則として株主の皆様に対し速やかに情報開示を行うことといたしております。

ニ 本プラン発動のための合理的な客観的要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されております。これにより、当社取締役会による恣意的な発動が防止される仕組みになっております。

ホ 第三者専門家の意見の取得

特別委員会は、当社の費用で、公認会計士、弁護士、コンサルタント、フィナンシャル・アドバイザー等の専門家など、独立した第三者の助言を得ることができるため、特別委員会による判断の公正さ、客観性は一層強く担保されるといえます。

ヘ デッドハンド型・スローハンド型の買収防衛策ではないこと

本プランは、その有効期間の満了前であっても、当社取締役会の決議によって廃止することができるため、いわゆるデッドハンド型買収防衛策ではありません。

また、当社の取締役の任期は1年であり、期差任期制ではありませんので、いわゆるスローハンド型の買収防衛策でもありません。

当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の詳細につきましては、当社ホームページ（<http://www.takara-print.co.jp/>）に記載しておりますので、ご参照願います。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

なお、当社グループの売上高はお得意様の決算期が3月に集中していることに伴い季節的変動があり、第1四半期の売上高が他の四半期に比べて多くなる傾向があります。

(8) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年10月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,936,793	12,936,793	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	12,936,793	12,936,793		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年6月1日～ 平成23年8月31日		12,936,793		2,049,318		1,998,315

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、該当事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,273,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,581,400	115,814	
単元未満株式	普通株式 82,193		
発行済株式総数	12,936,793		
総株主の議決権		115,814	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,900株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数49個が含まれております。
- 2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年5月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成23年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 宝印刷株式会社	東京都豊島区高田 3 - 28 - 8	1,273,200		1,273,200	9.84
計		1,273,200		1,273,200	9.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、和泉監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,748,887	5,293,411
受取手形及び売掛金	1,661,057	1,294,687
有価証券	334,789	334,863
仕掛品	823,916	162,855
原材料及び貯蔵品	36,328	27,826
繰延税金資産	48,905	179,966
その他	20,830	7,425
貸倒引当金	9,081	7,133
流動資産合計	6,665,634	7,293,902
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,059,685	3,059,685
減価償却累計額	2,078,151	2,093,976
建物及び構築物(純額)	981,534	965,709
機械装置及び運搬具	1,882,769	1,889,434
減価償却累計額	1,359,919	1,394,696
機械装置及び運搬具(純額)	522,850	494,738
土地	3,186,649	3,186,649
その他	303,882	302,377
減価償却累計額	264,801	267,509
その他(純額)	39,081	34,868
有形固定資産合計	4,730,115	4,681,966
無形固定資産		
ソフトウェア	794,704	731,274
その他	15,406	24,045
無形固定資産合計	810,111	755,320
投資その他の資産		
投資有価証券	1,304,428	1,273,819
繰延税金資産	226,111	260,521
その他	188,892	197,196
貸倒引当金	9,334	9,209
投資その他の資産合計	1,710,097	1,722,327
固定資産合計	7,250,324	7,159,614
資産合計	13,915,958	14,453,517

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年 8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	612,149	144,933
リース債務	73,160	73,737
未払法人税等	57,465	658,530
未払費用	886,002	305,948
賞与引当金	-	271,230
役員賞与引当金	26,310	6,414
その他	154,951	310,710
流動負債合計	1,810,038	1,771,504
固定負債		
リース債務	169,062	150,410
退職給付引当金	64,462	135,490
役員退職慰労引当金	91,566	80,227
固定負債合計	325,091	366,127
負債合計	2,135,130	2,137,632
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,049,318	2,049,318
資本剰余金	1,998,915	1,998,915
利益剰余金	8,793,383	9,341,232
自己株式	1,022,208	1,022,220
株主資本合計	11,819,409	12,367,245
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	74,409	89,131
その他の包括利益累計額合計	74,409	89,131
少数株主持分	35,827	37,770
純資産合計	11,780,827	12,315,884
負債純資産合計	13,915,958	14,453,517

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
売上高	5,055,456	4,701,624
売上原価	2,488,432	2,479,085
売上総利益	2,567,023	2,222,538
販売費及び一般管理費		
販売促進費	50,994	48,404
運賃及び荷造費	65,802	54,612
役員報酬	36,740	36,900
給料及び手当	415,740	407,138
賞与引当金繰入額	151,117	150,499
役員賞与引当金繰入額	5,977	6,414
退職給付費用	54,011	58,164
役員退職慰労引当金繰入額	2,022	2,054
福利厚生費	75,544	78,863
修繕維持費	13,135	7,490
租税公課	21,328	20,429
減価償却費	20,773	18,351
賃借料	28,699	26,567
その他	107,476	134,903
販売費及び一般管理費合計	1,049,364	1,050,794
営業利益	1,517,659	1,171,744
営業外収益		
受取利息	737	432
受取配当金	10,100	9,473
貸倒引当金戻入額	-	2,072
その他	7,991	8,877
営業外収益合計	18,828	20,856
営業外費用		
支払利息	193	1,880
持分法による投資損失	-	3,993
その他	166	497
営業外費用合計	359	6,370
経常利益	1,536,128	1,186,230
特別利益		
固定資産売却益	485	-
貸倒引当金戻入額	2,806	-
特別利益合計	3,291	-
特別損失		
固定資産除却損	2,202	17
投資有価証券売却損	-	28
投資有価証券評価損	105,831	2,554
施設利用権評価損	-	2,719
貸倒引当金繰入額	628	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7,183	-
特別損失合計	115,846	5,319
税金等調整前四半期純利益	1,423,574	1,180,910
法人税、住民税及び事業税	701,211	646,526
法人税等調整額	118,258	155,370
法人税等合計	582,953	491,156
少数株主損益調整前四半期純利益	840,620	689,754
少数株主利益	2,649	1,942

四半期純利益	837,970	687,811
--------	---------	---------

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	840,620	689,754
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	16,192	14,722
その他の包括利益合計	16,192	14,722
四半期包括利益	824,428	675,031
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	821,778	673,089
少数株主に係る四半期包括利益	2,649	1,942

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,423,574	1,180,910
減価償却費	120,627	139,598
引当金の増減額(は減少)	260,414	308,949
受取利息及び受取配当金	10,837	9,905
支払利息	193	1,880
売上債権の増減額(は増加)	270,567	366,495
たな卸資産の増減額(は増加)	615,343	669,562
仕入債務の増減額(は減少)	483,965	467,215
未払費用の増減額(は減少)	596,453	580,054
投資有価証券評価損益(は益)	105,831	2,554
持分法による投資損益(は益)	-	3,993
その他	113,032	138,139
小計	1,818,327	1,754,908
利息及び配当金の受取額	10,837	9,905
利息の支払額	193	1,880
法人税等の支払額	216,628	46,155
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,612,342	1,716,778
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	7,141	1,136
無形固定資産の取得による支出	81,244	25,692
投資有価証券の取得による支出	1,172	1,069
投資事業組合からの分配による収入	2,374	85
その他	1,088	81
投資活動によるキャッシュ・フロー	88,273	27,895
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	-	18,075
配当金の支払額	145,338	126,198
自己株式の取得による支出	74	12
財務活動によるキャッシュ・フロー	145,413	144,285
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,378,655	1,544,596
現金及び現金同等物の期首残高	4,120,430	4,079,177
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	69,818	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,568,904	5,623,774



【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日至平成23年8月31日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	
(賞与引当金) 前連結会計年度においては、従業員賞与の確定額を未払費用として453,719千円計上していましたが、当第1四半期連結累計期間は支給額が確定していないため、賞与支給見込額のうち当第1四半期連結累計期間負担額を賞与引当金として計上しております。	

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日至平成23年8月31日)
当社の売上高はお客様様の決算期が3月に集中していることに伴い季節的変動があり、第1四半期の売上高が他の四半期に比べて多くなる傾向があります。	同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日至平成23年8月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年8月31日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年8月31日現在)
現金及び預金勘定 5,238,822千円	現金及び預金勘定 5,293,411千円
預入期間が3ヶ月以上の定期預金 4,500千円	担保提供定期預金 4,500千円
有価証券勘定のうち マネー・マネージメント・ファンド 334,582千円	有価証券勘定のうち マネー・マネージメント・ファンド 334,863千円
現金及び現金同等物 5,568,904千円	現金及び現金同等物 5,623,774千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年6月1日至平成22年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年8月20日 定時株主総会	普通株式	160,991	13.00	平成22年5月31日	平成22年8月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年8月19日 定時株主総会	普通株式	139,963	12.00	平成23年5月31日	平成23年8月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年6月1日至平成22年8月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年6月1日至平成23年8月31日)

当社グループは、ディスクロージャー関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成23年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	67.67円	58.97円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	837,970	687,811
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	837,970	687,811
普通株式の期中平均株式数(株)	12,383,848	11,663,574

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年10月7日

宝印刷株式会社  
取締役会 御中

和泉監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 松 藤 雅 明

業務執行社員 公認会計士 飯 田 博 士

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている宝印刷株式会社の平成23年6月1日から平成24年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年6月1日から平成23年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、宝印刷株式会社及び連結子会社の平成23年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。